

2024年度（令和6年度）
学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：2023年（令和5年）4月 1日
至：2024年（令和6年）3月31日

2024年（令和6年）11月



学校法人駿河台学園 駿台トラベルアンドホテル専門学校

学校関係者評価委員会

目次

1. 概要と実施状況について

1.1 目的と基本方針	1 頁
1.2 学校関係者名簿	1 頁
1.3 実施状況	2 頁
1.4 評価方法	3 頁

2. 報告書について

2.1 表の見方	5 頁
----------	-----

3. 評価結果報告書

3.1 総評	7 頁
3.2 評価一覧（評価提言・今後の取組）	9 頁

4. 学校関係者評価委員会議事録

4.1 第9回	10 頁
---------	------

I. 概要と実施状況について

I-1 目的と基本方針

学校関係者評価は、学校評価という協働作業を通じて、学校と学校の関係者（企業、協会、学校、OB等）がお互いの理解を深めることを目的とする。すなわち、学校評価の基本である学校の自己評価が、学校に関係する方々から違和感なく受け入れられ、自己評価の客観性と透明性を高めることにある。また、共に学生の将来を考え、それぞれの立場や視点から意見を出し合い、よりよい学校作りに寄与することを基本方針とする。

I-2 学校関係者名簿

学校関係者評価は、関係業界、高等学校、卒業生、保護者により構成された下記の委員に委嘱した。

氏名	属性	選定種別	所属
かとう かつし 加藤 克志	業界団体	校長推薦	公益社団法人 日本観光振興協会 総務・渉外部門 総務部長
みょうち たかし 妙智 隆	卒業生	卒業生	株式会社エヌオーイー 取締役 営業本部 本部長
たけした ゆうすけ 竹下 祐介	企業	関連企業	株式会社エイチ・アイ・エス 本社人事本部 採用・人財開発グループ 採用チーム
かしわぎ とおる 柏木 徹	企業	業界関連	テック航空サービス株式会社 管理統括部長 総務・業務・人事部
つつい ようすけ 筒井 揚介	高 校	高 校	駿台甲府高等学校 副校長
えんどう ゆきこ 遠藤 由紀子	保護者	保護者	トラベル学科卒業生の保護者

1-3 実施状況

第9回目は、自己評価の説明後、前回の学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、更に検討すべき事案についてご討議いただきました。実施内容は下表のとおりです。

会議名	令和6年度 第9回学校関係者評価委員会
開催日時	令和6年11月22日(金) 13:30~15:30(120分)
場所	本校 本部校舎 306号教室
出席者	① 企業・有識者委員： 加藤、妙智、竹下、柏木、筒井以上5委員(音順、敬称略、以下同) ② 本校委員：田中(校長)、大野(副校長)、南(教務課長)、高島(キャリア支援担当) 岡田(教務課長補佐)、森川(教務部)、竹谷(トラベル学科長) ③ 事務局：司会…高島 書記…森川 写真撮影…南
欠席	遠藤委員・渡辺委員
配布資料	□第9回学校関係者評価進行表(本プリント)、「職業実践専門課程とは」レジュメ □事前配布済み…(令和6年度 学校自己評価報告書・学校関係者評価シート)
議題等	1. 挨拶(田中) 委員会出席に対するお礼を述べると共に、現在の学内状況について説明し、前回の会議を踏まえ、専門学校として社会要請に応えるための施策について議論いただきたい旨を依頼し、開会挨拶とした。 2. 出席者紹介と委員会成立の宣言(高島) (ア)事務局より有識者委員5名と本校委員7名を紹介した。 (イ)学校評価実施規定 第13条4に基づき過半数の出席が認められたため、委員会の開催を宣言した。 3. 前回委員会での課題、および今後の改善方策を基に、各基準の評価を確認した(納屋)。 基準1 教育理念・目的・育成人材、基準2 学校運営、基準3 教育活動 基準4 学修成果、基準5 学生支援、基準6 教育環境 基準7 学生の募集と受入れ、基準8 財務、基準9 法令等の遵守 基準10 社会貢献・地域貢献、基準 4. 学校自己評価中間報告に対し、評価シートに基づく討議。 各委員が事前記入した各基準の点検項目に対する評価シートを基に、委員から意見詳細を聞き取り、本校委員がそれに回答する形式で会議を進めた。 5. 学校関係者評価委員会の次年度の予定。 評価シート提出期限は2024年12月6日とする。次回開催は2025年11月下旬予定。 6. 解散

1-4 評価方法

1) 学内自己点検・自己評価の実施

学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って、令和6年度自己評価を実施した。自己評価の点検項目は10分類37項目である。『2024年度(令和6年度)学校自己評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント(適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0)を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員会に提出した。

2) 学内自己点検・自己評価の報告

学校関係者評価委員会では、学内委員から学校関係者に対し、『2024年度(令和6年度)学校自己評価報告書』を用いて、学校関係者委員に対して、各項目の自己点検実施状況、および評価ポイント、根拠、課題、今後の改善方法について説明を行なった。今年度は、学校関係者評価委員の任期切替後の初回実施という事もあり、全ての評価項目の説明を行った。

学校自己評価報告書<記述例> 本表は以下のように構成しています。

基準1 教育理念・目的・育成人材像

点検項目【1-1～1-5】理念・目的・育成人材像

[チェック項目]

- ☐ 理念・目的・育成人材像は文章化するなど明確に定められているか
- ☐ 学校における職業教育の特色はあるか

➡ ①大項目

➡ ②中項目

➡ ③中項目における本校で
チェックをすべき項目。

本校は1980年(昭和55年)の学校創立以来、創設者の理念すなわち駿河台学園の理念である「愛情教育」を学校の理念としてきました。学問に対するひたむきさ～

④中項目の点検項目に対する
本校の取り組み内容

項番	点検項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0
【1-1】	理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
【1-2】	学校における職業教育の特色はあるか	④ 3 2 1 0
【1-3】	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1 0
【1-4】	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0
【1-5】	各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1 0

➡ ⑤中項目について自己評価
を行った結果に対する記載

1.課題

[]

2.今後の改善方策

[]

3.特記事項

[]

- 1.評価委員が挙げた課題
- 2.今後の改善方法
- 3.特に記載が必要な事項

3) 学校自己評価の評価

学校関係者は、本校の自己評価の説明を受け、内容と評価方法を理解した上で、本校が行った自己評価結果について「適切」「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 記入シート」のコメント欄に記載した。

本記入シートは、委員会終了後に学校関係者へ郵送、またはメールにて回収し、評価一覧にまとめた。

<記入例>

学校関係者評価シート 自己評価の結果について、ご評価をお願いします。該当に○を記入ください。	
評価者氏名	
本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標・計画 基準1 教育理念・目的・育成人材像 点検項目【1 - 1】 理念・目的・育成人材像	
評価結果	○ 適切 不適切
自由記述欄 (お気づきの点やご要望を記述してください)	

2. 報告書について

2.1 表の見方

自己評価：学内自己評価を取りまとめた結果。

(適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0)

第9回の委員会での学校関係者の提案、および評価シート記載内容。

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	番号	項目名			
1	教育理念・目的・育人人材像	【1-1】	理念・目的・育人人材像	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-3】	未来構想	3	①社会を踏まえた学校の将来構想の今後の改善方策については、今まさに各企業がAI・ロボット等を活用し益々オートメーション化(自動化)している中だからこそ、より一層人と人のコミュニケーション力の強化が必要。次年度は評価4「適切」となるように将来構想を明確にして励んでほしい。(小林委員) ②一般教養を高めるためのトレーニングであるステップトレーニングというのは留学生にも実施しているか。(矢澤委員)	①まだ方針が曖昧な部分が多く、今後の高校カリキュラムが具体化する中で、方向性がはっきり見えてきてから、学科長会議で話し合って結論を出していく。 ②留学生は、日本語能力の基礎力のアップがまず優先される為、現時点では、日本人だけ実施している。留学生には入学前の日本語補習を実施している。
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運営されている(100%)	

学校関係者の提言に対する、本校の今後の取り組み内容（提言の丸付き数字に対応して記載）。

評価提言の（ ）内は、各提言に対する学校関係者の比率（評価シートより集計）。

3. 評価結果報告書

3-1 総 評

本校は平成31年(2019年)3月5日に職業実践専門課程の認定を受けて以降、認定校としてふさわしい学校として評価をいただけるよう、また、委員の皆様のご意見を堅実に実現できるよう努力を続けてまいりました。

学校関係者評価委員の方々も4年目となり、本校の自己評価が、昨年度の指摘事項を反映されているかなど、メンバーから厳しいご意見があるかと心配しておりましたが、「外部委員の指摘内容を堅実に取り組んでいる」との評価をいただき安堵いたしました。今後も学校関係者評価委員会を実施することで、本校の教育内容の客観性や経営内容の透明性を高め、本校教職員一人ひとりが教育の質の向上に向けて取り組んでまいります。なお、この第9回委員会では、各委員から評価終了との判断を頂きましたので、本年度の委員会は今回で終了とし、次回を2025年度11月に開催することといたします。

過去最高の訪日観光客数が象徴する観光サービス業界の回復の一方、そこに携わる人材は回復に追いつくことができず不足をしております。その不足を補う人材はもちろん、ポストコロナの新業態・新サービスを創造、提供し独創的なアイデアや戦略を実践できる若い人材の確保が喫緊の課題となっております。その為にも、業界の皆様からの新しい発想や助言をいただきながら、新しい観光サービス業に対応したカリキュラムを設定し、「新しい観光サービス業」で活躍できる人材育成に邁進する所存です。この取り組みを真摯に続けることを誓い、学校関係者評価委員会の評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
校長 田中 雅浩

3.2 評価一覧(評価提言・今後の取組み)

2024年度(令和6年度) 学校関係者評価報告書(本年度定めた重要項目、基準1～4)

項目	点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
	番号	項目名			
本年度定めた重点事項	【1】	重点5項目の適切な学校運営	4	適切に運用されている。 世界各国で高く評価されている日本人のホスピタリティマインドを体現するための教育は評価できる。(加藤)	観光業の重要性はもちろん、大人とのコミュニケーション能力を高め、就職活動に生かせるよう対面授業と課外活動を工夫しながら引き続き今後も継続する。

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	項番	項目名			
1	教育理念・目的・育成人材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	適切に運用されている。 理念や目的は評価できる。これらを学校全体にさらに浸透させるための工夫(掲示や教員の呼びかけなど)ができると一層よいと考える。(妙智)	「ホスピタリティ・マインド」の学校全体への浸透にも注力し、それらを学ぶ・考える授業を今後も継続する。
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運用されている。	
		【1-3】	社会ニーズを踏まえた将来構想	3	適切に運用されている。 SNSについては、有益である一方メンテナンスを行わないと逆効果になりえるため、理解や技術習得の時間を割く方がよいだろう。(竹下) SNSは活用方法を誤ると炎上や偽情報の流布などの危険性があり諸刃の剣であると感じた。(簡井)	経済活動のデジタル化を意識した情報機器の活用は業界問わず求められるものであり、学生との親和性の高いSNSを通して活用方法を理解することが必要である。
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	適切に運用されている。	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運用されている。 企業が求める専門学校生の「即戦力」性を育てる実践的な教育が社会人一般に求められる早期自立の意識付けにも関連している点で評価できる。(柏木)	実地研修等の機会は学生と社会とのつながりを実感できる取り組みであり、意識付けにおいても有効であるため一層取り組みに力を入れたい。
2	学校運営	【2-2】	運営方針	4	適切に運用している。	
		【2-3】	事業計画	3	適切に運用されている。 観光とビジネスホテルではニーズやスキルが異なるため、両分野を包括的に学べる学科体制にすることが企業が求めるメリットにつながる。(柏木) 京都など主要な観光地にいる外国人観光客の数を見ると、募集が芳しくないという事実は信じがたい。(簡井)	学生募集が厳しい状況ではあるが、収入に見合った事業運営を継続しつつ新たな募集方法の切り口を模索する。
		【2-4】	運営組織	4	適切に運用されている。	
		【2-5】	人事・給与制度	4	適切に運用されている。 教員と職員の管軸が異なるということで管理や評価、人事異動関連が大変なのはと感じた。(竹下)	定年退職者が増えることから新旧交代ができるよう、ベテランは若手に直接指導できる体制を整える。
		【2-6】	意思決定システム	4	適切に運用されている。	
		【2-7】	情報システム	3	適切に運用されている。	2022年度よりシステム改訂にお金をかけずに使いこなせるよう進めていく方針で運用している。
		【3-8】	目標の設定	4	適切に運用されている。	
3	教育活動	【3-9】	教育方法・評価等	4	適切に運用されている。 サステナブル活動に対する教育に取り組むことは企業にも個人にもさらに求められるだろう。また、ビジネスホテルは安定したマーケットでかつ企業ニーズはあるため専門知識を得られる教育が特色となりうる。(妙智)	就職における検定試験の取得の意義と就職後の意識づけをおこない、担任が学生の学習状況を把握し、目標数値を掲示する。
		【3-10】	成績評価・単位認定等	4	適切に運用されている。	
		【3-11】	資格・免許取得の指導体制	3	適切に運用されている。 資格取得は重要だがそれが目的になってはならない。キャリア形成の上での重要性を説くべき。(加藤) 実際に入社試験で資格を持っているというのは必須ではないものの、最近では旅行取扱管理者資格を持っている学生の方が少ないので取っていると有利に考えるところがあります。(柏木)。	実践的な英語力の強化するために、授業時間外でも英語に取り組める環境を整備する。
		【3-12】	教員・教員組織	4	適切に運用されている。	
		【4-13】	就職率	4	適切に運用されている。 高い就職内定率、貴校の指導の賜物であると敬意を表します。 引き続き観光業界に対して優秀な人材の輩出を期待しております。(加藤)	内定後に学びへのモチベーションを下げたまま学生に対するモチベーション維持向上の取り組みを実施する。
4	学修成果	【4-14】	資格・免許の取得率	3	適切に運用されている。 就職率、資格・免許の取得率ともに高い水準を維持していますし、取得のための指導体制も充実していると思います。(簡井)	一部の企業では、人事制度が変わり昇格するには資格取得が義務付けられてきている。就職している先輩を招き、学生時代に資格取得の意味や厳しい現実を踏まえた体験談を伝える機会を定期的に設ける。
		【4-15】	卒業生の社会的評価	4	適切に運用されている。	

2024年度（令和6年度）学校関係者評価報告書（基準5～10）

基準		点検項目		自己 評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	項番	項目名			
5	学生支援	【5-16】	就職等進路	4	適切に運用されている。	
		【5-17】	中途退学への対応	4	適切に運用されている。	
		【5-18】	学生相談	4	適切に運用されている。	
		【5-19】	学生生活	4	適切に運用されている。	
		【5-20】	保護者との連携	4	適切に運用されている。	
		【5-21】	卒業生・社会人	3	社会に出てしまうと卒業生同士であることを知る機会が少ない。同窓会のような卒業生のコミュニティは必要であると感じる。(妙智)	2023年に実施した同窓会懇親会も4年周期で実施予定。卒業生交流の場を提供する。
6	教育環境	【6-22】	施設・設備等	4	適切に運用されている。	
		【6-23】	学外実習、インターンシップ等	4	企業実習制度は長期インターンシップとして企業を学ぶ良い手段である一方、入学と同時に実習先企業を決める方法は選択肢が絞られること（特にBTMは選択肢になり難い）、ミスマッチの発生の懸念がある。(妙智)	企業実習の開始時期を含め、期間を再度検討する。
		【6-24】	防災・安全管理	4	適切に運用されている。 Google Work for Educationの連絡網で安否確認を行っているとのことを理解した。(柏木)	
7	学生の募集と受け入れ	【7-25】	学生募集活動	3	適切に運用されている。 ホームページは見やすい作りになっている。オープンキャンパス時のみならず、来校者に対してはいつでも挨拶をする習慣をつけるというのではと思いました。(柏木)	イベントのみならず通常時もお客様を迎え入れる姿勢を維持するような指導を徹底する。
		【7-26】	入学選考	4	適切に運用されている。	
		【7-27】	学納金	4	適切に運用されている。	
8	財務	【8-28】	財務基盤	4	適切に運用されている。	
		【8-29】	予算・収支計画	4	適切に運用されている。	
		【8-30】	監査	4	適切に運用されている。	
		【8-31】	財務情報の公開	4	適切に運用されている。	
9	法令等の遵守	【9-32】	関係法令、設置基準等の遵守	4	適切に運用されている。	
		【9-33】	個人情報保護	4	適切に運用されている。	
		【9-34】	学校評価	4	適切に運用されている。	
		【9-35】	教育情報の公開	4	適切に運用されている。	
10	社会貢献・地域貢献	【10-36-1】	社会貢献・地域貢献	3	適切に運用されている。 外国人留学生の増加を契機に、日本人学生や地域の方々との積極的な交流を継続していただければと思います。(加藤)	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献活動として「大人の教養講座」を企画し、実施。
		【10-36-2】	国際交流	4	適切に運用されている。 採用面接にて、「子供のころに海外旅行をし、海外の文化に触れたことがきっかけ」として旅行業を志したという話をよく聞く。そのように小中学生の時期に海外交流の機会を作り、興味を持ってもらうことが業界を目指す学生を増やすことにつながるのでは。(妙智)	
		【10-37-1】	ボランティア活動	4	適切に運用されている。	

総合評価【自己評価の確認および次年度重点項目の設定】

本校の自己評価については、学校関係者から全て『適切に運用されている』との評価を頂きました。学校関係者評価委員の方々は学校・企業・保護者等の立場から、本校が気付かない様々なご意見を、専門分野における経験と見識を以てご指摘くださいました。

質疑応答の中では、本校の取り組みの苦勞をご理解のうえ、各学校関係者の組織におけるご苦勞もお伝えいただき、情報を共有することが出来ました。

今後は、学校関係者からご指摘を受けた部分、特に評価ポイントが低い項目について、内容を精査し、次年度の教育重点項目として自己点検を実施し、改善に努めてまいります。

4. 学校関係者評価委員会議事録

4-1 2024年度(令和6年度)第7回学校関係者評価委員会 議事録

基準1(教育理念・目的・育成人物像)

高島	「ここからは、自己評価報告書について、委員の皆さまのご意見をいただきたいと思います。まず、本校が課題と捉えているのは、次の3点です。」 「1つ目は、観光業務に不可欠なPC操作やSNSの活用スキルの強化」 「2つ目に、アクティブラーニングを取り入れて学生の主体性を伸ばしていくこと」 「そして3つ目が、ホスピタリティに関する実例学習や実践的な研修の活用です」 「特に1つ目と2つ目の『SNS活用』と『主体性の伸長』については、現場の視点からぜひ率直なご意見をいただければと思います。では、加藤様、いかがでしょうか？」
加藤	「ありがとうございます。まず、SNSの活用については非常に重要だと感じています。最近では、自治体などの公的な情報よりも、実際に旅行した人たちの投稿のほうが信頼されているというのが現実です。」 「一方で、SNSにはリスクもあります。一度炎上すれば一気に広がりますし、誤情報の拡散という問題もある。学生のうちから、『発信する力』だけでなく『発信のリスクを管理する力』も身につけておく必要があると思います。」 「ホスピタリティの話にも関係しますが、やはり“誰かが見ている”という意識を常に持って行動する訓練が大切ですね。」
高島	高島秀行(司会) 「ありがとうございます。まさに仰るとおりですね。SNSでの発信というのは学生にとって身近な分野ではありますが、それを業界水準で活用するにはまだ訓練が必要だと感じています。」 「続いて、もう一つの課題である『主体性の育成』についてです。こちらも教育現場としてはなかなか難しい課題だと感じているのですが、妙智様、企業の立場から見て、何か取り組まれていることなどございますか？」
妙智	「そうですね、弊社でも新入社員の多くが“指示待ち”の傾向にあるのは事実です。“自分から動く”ということができる人は、やはり学生時代にそういう環境で育ってきたのだと思います。」 「ですので、学校の中で、たとえばディスカッションの機会を増やすとか、グループワークで発言する場を用意することが、結果的に社会に出たときの行動力につながると思います。」 「意見を持つ、そしてそれを言葉にして伝える、そういった訓練をどれだけ積めるかがカギになると考えています。」

基準2(学校運営)

高島	「特に2の3の『事業計画』に関わる部分ですが、近年、観光業界の雇用が不安定だったこともあり、学生や保護者が就職先として敬遠する傾向があります。ただ、実際には求人数も回復してきていて、このギャップをどう埋めるか、頭を悩ませています。実際の雇用状況について、企業側としてどのように感じいらっしゃるか、柏木様、ご意見いただけますか？」
----	---

柏木	「はい。弊社では中途採用や第二新卒を対象に、求人広告を出しました。すると、400人超の応募があり、その中で面接まで進んだのは数パーセントです。中には、コロナ禍で旅行業を諦めてIT業界に行ったけれど、改めて応募してきたという方もいました。」 「ただし、応募者の中には旅行業に強い興味があるというよりも、福利厚生や勤務条件の良さで応募してきている人も一定数います。条件面を重視している印象があります。」
高島	「なるほど。旅行業に対する“熱意”があるかどうかを、どのように見分けているのでしょうか？」
柏木	「そうですね、極端な話ですが、中には“海外旅行に行ったことがない”という方もいました。単に給料や勤務条件で応募してくる方もいます。ただ、採用基準としては、最低限“旅行業に興味がある”ことを重視しています。」 「ちなみに、応募者は女性の方が多い傾向にありました。割合で言うと、7割以上が女性だったと思います。」
高島	「旅行業に関心を持つ若い女性が多い一方で、旅行業を離職した若年層は、再びこの業界に戻ってこない傾向があるということですね？」
柏木	「はい、その通りです。私たちの世代では“旅行業を辞めても他の旅行会社に転職できる”という感覚がありましたが、今の若い世代はそうではなく、まったく別の業界に転職してしまう傾向が強いです。特にIT業界などですね。」

基準3(教育活動)

高島	基準3につきましては南委員より説明をお願いします。
南	「では、教育活動についてご説明しますね。まず、観光サービス系の企業が求める人材を育成していく必要があると考えています。それに合わせて、カリキュラムについては学生の声も反映していくべきです。学生アンケートを取って、その内容をカリキュラムに活かすようにしています。それから、先生方の評価も重要です。改善が必要な場合は個別で指導を行っています。学生の成績評価についてですが、進級・卒業に関しては、進級会議や卒業判定会議を開いて、きちんと単位が取れているか確認しています。1年終了時、2年生の夏、2月の卒業前と定期的に点検しています。指導が届いていない学生や問題のある学生には改善を促しています。」 「また、成績が思わしくない学生については、クラス担任が会議で報告し、その情報をもとに指導しています。逆に、成績優秀な学生については、入学式や卒業式で表彰しています。他の専門学校よりも積極的に成果を発信していると思います。」 「検定資格に関しては、4月の段階で学生に年間の検定予定をしっかりと伝えています。担任の先生からも、「この資格は就職に有利だから取りなさい」といった指導が行われています。」 「ただ、検定の種類も多く、例えば秘書検定やサービス接客検定、サービス介助士など、学科によって必要とされる資格は異なります。なので、学生への指導に力を入れる部分とそうでない部分の差が出てきます。」 「最近では、学生が自主的に資格を取ろうとしない傾向が強いと感じています。担任の先生から強く言われないと、なかなか受験に踏み切らないようです。学校では、春・夏・秋と3回に分けて検定の申し込み期間を設けているのですが、反応が鈍いというのが実情です。日本人学生の人数が減っていることありますが、受験率自体も下がっています。英語などの主

	要資格でさえ、受けない学生が増えている印象です。」 「講師が情報発信の中心になるべきなので、毎年 4 月には前年の合格実績や受験者数を資料として共有しています。それを担任の先生方に伝えて、学生に指導してもらいたいです。」 「勉強が苦手な学生も多い中で、今年 4 月からは「自習室」を毎日開けるようにしました。何号教室が空いているかを掲示して、使えるようにしています。まだ利用者は限られていますが、毎日来ている学生もいます。」 「対外的にも「この学生はこういう資格を持っています」と報告できるよう、資格の取得状況をリスト化して先生方に共有するようにしています。」
竹谷	「それではトラベル学科の資格受験の現状についてご報告します。今年、2年生だけのクラスでしたが、1年生の時に全員が「国内旅行業務取扱管理者」に合格しています。 なので、今年は全員で「総合旅行業務取扱管理者」にチャレンジしました。まだ正式な合格発表は出ていませんが、自己採点では合格率 50%です。全国平均は大体 20~30%くらいなので、それと比べればかなり高い結果だと思います。」 「今年、学校として変えたことがあります。例年、夏期集中授業で対策をしていたのですが、試験日が 10 月後半に移ったことで、そこに 1 か月ほど空白ができてしまうんですね。その空白を埋めるために、今年は後期に入ってから、毎週 1 日、1 限から 4 限まで丸一日補講を実施しました。自由参加でしたが、モチベーションの高い学生が多く、ほぼ全員が参加してくれました。そのおかげで良い結果に繋がったと感じています。」 「また、今年初めて「世界遺産検定 2 級」にも取り組みました。これまで授業ではあまり取り上げていなかったのですが、ホームルームの時間を使って、教材を用意し、4 回にわけてフォローしました。結果、全員が合格しました。この結果からも、今後はこの世界遺産検定についても授業として組み込んでいきたいと思っています。」
高島	「ありがとうございます。高校現場での資格試験に関する対応をどのようにされているか、筒井様、ご意見いただけますでしょうか。」
筒井	「高校生にとってポピュラーな英検というのは、大学受験や、大学に入ってから、さらには将来さまざまな場面で非常に重要になってきます。ですので、2 年生の段階で準 1 級や 2 級を目指して、最終的には高校卒業までに 2 級を取得するという目標を掲げて進めています。」 「徐々にその目標も浸透してきていて、生徒本人たちもやる気になってきているのですが、そうした生徒たちをサポートする体制が必要です。具体的には、こういった授業や、先生方のフォローがしっかりあればよいのですが、「じゃあやりましょう」と言うだけでは不十分で、今の生徒たちにはしっかり寄り添ってあげないといけません。」 「ある程度力がついてくれば、高校の段階でもどんどん勉強して 1 級を目指すようになるのですが、そこに至るまでの過程でのフォローが大切です。たとえば、こうした授業や教材、また進捗状況の報告など、生徒たちが継続的に学習できるような仕組みやサポートが必要です。ただ「頑張りましょう」と声をかけるだけではなかなかうまくいかないのも、そのあたりを今、課題として感じています。」

基準 4 (学修成果)

高島	「就職率について、私の方からご説明いたします。本校全体としては、希望者就職率 100% を目標に取り組んでおり、直近 3 年間の日本人学生の就職率は、2022 年度が 99.1%、2023 年度が 100%、そして 2024 年度（本日時点）では 95.5%となっております。今年度については学生数の減少も影響していますが、あと 3 名が就職すれば 100%に到達する見込みです。現在も学生は着実に就職活動を進めており、最終的には 100%に達すると考えております。 「また、留学生についても多く在籍しており、内定率は 2022 年度が 92.9%、2023 年度が 93.8%、そして 2024 年度（現時点）では 73.7%です。留学生は日本人学生と比べて就職活動の開始がやや遅れがちで、特に 2 月から 3 月にかけての活動開始時期に一時帰国することも多く、それが出遅れにつながっています。こうした点は、今後の課題の一つと捉えています。ただし、2022 年度と 2023 年度の内定率は他校と比較しても非常に高い水準にあり、その点をご理解いただければと思います。」 「就職率向上のために、当校ではセミナーの開催、集団面接対策、筆記試験対策などの授業を実施しています。今年度は特に留学生 1 年生の入学者数が増加したため、早期からの意識付けを目的として、6 月時点で企業 3 社をお招きし、キャリア形成に関する講義も行いました。さらに、毎月キャリア支援室による活動のほか、外国人向けハローワークの職員を招いた取り組みも継続的に実施しています。これらの努力によって、就職率の高水準を維持しています」。 「続いて、資格・免許の取得率について、南委員、ご説明お願いいたします。」
南	「先ほどの話と重複する部分もございますが、資格取得については、各学科のカリキュラムに組み込まれており、トラベル学科、鉄道学科、ホテル学科、ブライダル学科が主な対象です。たとえば、トラベル学科と鉄道学科ではアマデウスシステム検定試験の受験があり、2024 年度 10 月実施（鉄道学科のみ対象）では 14 名中 13 名が合格し、合格率は 92.9%でした。なお、この年度はトラベル学科の 1 年生が在籍していませんでした。2023 年度と同試験では、10 月と 2 月の実施を合わせて 14 名全員が合格し、100%の合格率を達成しています。アマデウスシステム検定は観光業界で非常に重要な資格であり、大学生でも取得者が少ないため、本校では特に重点的に指導を行っています。」 「次に、国内旅行取扱管理者試験については、2024 年度 10 月実施で 20 名中 6 名が合格し、合格率は 31.2%でした。2023 年度は 9 名中 5 名が合格し、55.6%という結果でした。今年度はやや下がっていますが、3 割程度の合格率を維持しています。加えて、2 年次に受験予定の総合旅行業務取扱管理者試験については、2023 年度に 14 名中 3 名が合格し、合格率は 21.4%でした。2024 年度の結果はまだ出ておりません。」 「ホテル学科では、ホテル・レストランサービス（HRS）検定試験が中心となっており、2024 年度は 31 名中 29 名が合格し、93.5%という高い合格率を記録しています。この学科ではここ数年、90%以上の合格率を維持しており、非常に良好な結果を出しています。また、ブライダル学科のブライダルコーディネイト技能検定（3 級）においても、昨年度までの実績で 31 名中 29 名が合格し、こちらも 93.5%の合格率となっております。このように、各学科において重点的に取り組んでいる資格については、いずれも高い合格率を実現しています。」 「一方で、課題も存在します。書面にも記載があるように、内定を得た学生は時間的余裕ができることで勉強意欲が下がる傾向があり、卒業に必要な単位をすでに取得している学生の中には「資格を取らなくてもよい」と考える者も出てきており、これが資格取得率の伸び悩みにつながっています。」 「そのため今後は、「資格を持っていることで将来の昇進や待遇に有利になる」といった点を在学中からしっかりと伝え、学生の資格取得意欲を高める取り組みが必要だと考えています。

	また、最近の学生は選択肢が多すぎると逆に迷ってしまい、自分で選ぶことが難しいという傾向も見られます。本校では、1 学期に学習した内容を夏頃に受験できるよう、検定のスケジュールを調整するなど工夫をしていますが、提示する資格の種類が多すぎると、かえって混乱を招き、どれも中途半端になる恐れがあります。」 「昨年から今年にかけては、同じ名称の検定試験について、年 3 回実施していたものを 2 回または 1 回に絞るなど、検定の見直しも進めていますが、受験者数の増加にはまだ課題が残っています。先生方からのご意見も参考にしつつ、少しずつ改善を重ねており、今後もさらに受験率を高めていきたいと考えています。特に英検や TOEIC については、日本人学生向けに授業内で対策を行っているにもかかわらず、受験率がなかなか上がらないというのが現状です。これは、現在もっとも大きな課題の一つだと捉えています。」
高島	「ありがとうございます。それでは 15 ページをご覧いただきたいのですが、定義項目について少しご確認いただければと思います。先ほど南委員からも説明がありました通り、「1-4-1」や「1-4-4」の部分には、課題や改善方針が記されています。その前に、就職率について私からも少しお話をさせていただきましたが、例えば観光業全体を広い視点で見たときに、人材の必要性が足りているのか、それとも足りていないのかといった点について、感覚的な実情を加藤さんからご意見いただければと思います。」
加藤	「私たちは旅行業の協会ではないので、旅行業界の具体的な状況については把握しづらい部分もありますが、我々と同様に全国各地には観光協会や DMO（観光地域づくり法人）などの組織が設置されています。そうした組織に対して、私たちは定期的にアンケート調査などを実施しております。その中で最も多く挙げられる課題は、やはり「人材不足」です。」 「観光全体を担う立場の観光協会として申し上げますと、やはり関連分野において人材が不足しているという実感があります。また、私たちの協会の会員であるホテルや旅館の皆様からも、コロナ禍で一度離職された方々がなかなか業界に戻ってきていないという話を非常によく伺います。特にホテルや旅館では、一度離職して観光業以外の分野に転職した場合、土日休みの勤務体制に慣れてしまうと、再び観光業界に戻るのが難しくなってしまうようです。現在、外国人観光客が戻ってきている中でも、業界全体として人手が足りていないというのが現状です。やはり「土日働かなくてはいけないのか」といった点で、戻って来られない方が多いのが実情だと思います。観光業界、そして宿泊関連の業界では、人材不足が大きな課題であるというのが、私たちが肌で感じている現状です。」
高島	「ありがとうございます。では、いわゆる観光地、例えば京都などでの人手不足と、地方、いわば「山間地域」といった場所での状況には、温度差があるのでしょうか？」 「いえ、それはもう全国的な問題だと思っています。むしろ、京都のように観光客が非常に多く集まる地域ほど、当然ながら必要とされる人材も多くなるため、人手不足がより顕著です。また、観光業界全体でも「人材はいるが、マーケティングや観光情報の分析・活用ができる人材が不足している」という声もよく耳にします。」ですから、こういったマーケティングやマネジメントのできる人材を育成していただけると、我々としても非常にありがたいと感じています。」
高島	「ありがとうございます。。マーケティング人材の確保というのは、本当に難しい問題だと思います。やはりその分野に関わる方が観光に関心を持っていないといけないので、そこが難しいところですね。私もその点は強く感じます。」 「次に、課題として挙げられている「1-4-4」の点についてですが、先ほど南委員からも説明がありました通り、内定が決まった 2 年生の多くが卒業しか見えておらず、資格取得への意欲

	が高まらないという現状があります。そこで、竹下様の企業では、内定後の学生に対して何か特別な取り組みや過ごし方の指導などを行っていらっしゃいますか。」
竹下	「はい、ありがとうございます。弊社では、学生からよく質問を受けますが、「この資格を必ず取りなさい」といったような指示は一切していません。むしろ残りの限られた学生生活を有意義に過ごすことが大切だと考えており、旅行会社に入社するという観点から言えば、国内外問わず実際に「旅をしておくこと」が最も重要だと伝えていきます。お客様との接点において、生の情報を持っているかどうかは非常に大きな差になりますし、自分自身の知識の蓄積にもなります。そして、唯一全員に取得をお願いしているのが、旅行商品の販売時に必要となる「損害保険（損保）」の試験です。これだけは必ず合格しておくようにと伝えていきます。それ以外に「総合旅行業務取扱管理者を取りなさい」や「国内旅行業務取扱管理者を取りなさい」といった強制的な指示はしていません。」
高島	「つまり、損保の資格以外は必須ではないということですね。」
竹下	「そうです。例えば、四年制大学の学生が資格を持っていると「おっ」と思いますが、専門学校の学生はそれを専門的に学んできたという前提があるため、むしろ「取っていて当然」という見方になります。ですので、専門学校で2年間しっかり学んできたという点が、入社後の即戦力としての評価にもつながると思っています。ただ、内定を出した後で「この資格を取ってください」と言うことは、弊社ではしていません。むしろ皆に「旅をこなさい」と伝えていきます。」
高島	「知識よりも実体験を重視されているわけですね。ありがとうございます。それでは、柏木様の企業でも、同様に資格取得を必須とはしていないのでしょうか？あるいは逆に「この資格は取っておいたほうがよい」といった考えはありますか？」
柏木	「「必ず取れ」とまでは言いませんが、やはり専門学校の学生と面接する際には、履歴書に資格があるかどうかはひとつの判断材料になります。逆に、大学生が積極的に資格を取得している場合は、大きな評価ポイントになります。大抵の場合、面接時には「今、資格取得のために勉強中です」といった話を聞きますが、実際には入社後も取得していないというケースが多いのが現実です。」
高島	「勉強中」という事実は確かにあるのですが、私はその勉強に取り組んでいる姿勢や努力そのものにポテンシャルを感じます。そういった点は評価されるのでしょうか？」
竹下	「もちろん、そういった努力の姿勢は評価します。」
高島	「わかりました。ありがとうございます。」

基準5（学生支援）

高島	「基準5の「学生支援」の中で、特に「就職支援」についてお話しします。パンフレットの3ページをご覧ください。1年生の4月からビジネスマナーを授業に組み込み、9月からSPIや履歴書対策を始め、10月以降は面接対策、11月には就活ガイダンスを行います。企業セミナーも11月以降に開始、場合によっては9月から開催している企業もあります。」就活自体は1月から本格化し、早い学生は2月には内定をもらいます。ピークは4～5月。企業の採用活動が年々早まっているので、私たちも対応を調整しているところです。ただ、現状の体制でも就職率は一定成果があるので、大きな変更は予定していません。」
----	--

南	「次に「卒業生支援」についてです。本校には同窓会組織があり、役員は卒業生 9 名で、年 2 回の役員会と 1 回の総会を開いています。在校生からの交友会費を奨学金に活用しており、経済支援にもつながっています。昨年の 9 月には同窓会を開催しました。DM を 3000 通送り、221 名が参加。DM88 名、友人の口コミ 76 名、旧教員経由 44 名と、さまざまな経路から集まりました。ですが、ホームページを見て参加した方は 0。愛校心が大学よりも醸成されにくいのではと感じました。参加者からは最新の連絡先を QR コードで取得。今後は卒業式の際に QR コードを配布して、卒業直後から情報を更新できる仕組みを検討しています。卒業 5～15 年層が参加の中心でした。ホームページの改善や連絡先更新の仕組みづくりが今後の課題です。」
高島	「資料内の卒業生支援についての記述をご覧ください。同窓会は、卒業生同士の情報交換や横のつながりにもつながっていて、非常に有意義だったと思います。」
妙智	「卒業生同士の横のつながりは、基本的には友人レベルです。全体のネットワークはまだ弱いですね。ただ、年齢を重ねると業務上でつながりが必要になる場面も多いので、こういう同窓会の場は貴重です。」
筒井	「他校の例になりますが、全日制の学校で 45 周年事業をやった際は、卒業生の中に実行委員を立てて SNS などを使って繋がりを作っていました。今の時代、在学中から SNS で関係を築いておくことが、後々の組織活動にも役立つと感じます。」

基準 6 (教育環境)

大野	「それでは、基準 6 の教育環境についてご説明いたします。まず、本校の実習設備ですが、ホテルのベッドルームでのベッドメイク、フロントカウンターでの受付対応、ホテル英会話など、実際の業務を模した練習ができる環境があります。ブライダル関連では、チャペルでの模擬挙式や披露宴、衣装室でのウェディングドレスの着付けやヘアメイクなども行っています。一方で、鉄道やトラベル分野では実物設備はないものの、資格取得や外部実習で補っています。また、バリアフリーについてですが、一部校舎は対応が難しい部分もありますが、ツーリズム館やホテル館などはスロープやエレベーターもあり、可能な限り対応しています。」 「防災面では、校舎下のスーパーで揚げ物を扱うこともあり、火災時の対策も必要です。年 1 回、各クラスごとに避難訓練を行い、近隣の避難場所まで実際に避難しています。校舎が 3 つあるので、教職員も分かれて避難誘導を行っています。」
南	「本校の特色として、学内授業だけでなく企業実習も積極的に取り入れており、学生が社会人としての経験を積む機会を提供しています。海外研修も再開しており、今後は日本との違いを体験的に学んでほしいと考えています。また、毎週金曜日には清掃スタッフと打ち合わせをしており、壊れている箇所や学生のマナー面も確認しています。土日にも出勤者がいるので、教室利用や清掃の指示を事前に連携して、安全管理に繋がっています。」
高島	「教育環境全体としては、適切なものと自己評価しています。ご質問などありますか？」
竹下	「外国籍の学生さんが多いとのことですが、震災時などの安否確認はどのようにされていますか？」
高島	「はい。全学生に学校のドメインでメールアドレスを発行しており、Google Workspace を利用して一括連絡が可能です。学生がメールを確認するかどうかは本人次第ですが、連絡手

	段としては整備しています。」
竹下	「なるほど。それなら安心ですね。弊社では震度 5 強以上の地震時に 5 分以内の返信を義務づけていて、外国人スタッフへの連絡が課題だったので参考になりました。」
妙智	「弊社では、住んでいる場所の情報を登録し、地震や洪水が発生したら自動でメール通知され、返信する仕組みを導入しています。」
田中	「企業の取り組み、素晴らしいですね。実は、阪神淡路大震災の際に、災害備蓄や簡易トイレなどを整備したことで、後の東日本大震災時に非常に助かりました。そのときは通信が完全に止まり、生徒の安否確認に 1 か月以上かかりました。発信すらできない事態もあるので、今は自動化された通知システムが重要だと痛感しています。」
筒井	「最近、総務省から『72 時間は校内に留まるように』という通達が来ているんですが、皆さんのような備えをされていますか？」
大野	「水や乾パンなど、多少の備蓄は用意しています。お腹いっぱいにはなりませんが、3 日間ある程度対応できる体制です。」

基準7(学生募集と受入れ)

大野	「それでは『学生募集活動』についてお話しします。高校生については、1 年生から進路指導が始まっているため、高校での説明会に積極的に参加しています。留学生については、日本語学校での説明会や、サンシャインシティなどでの大規模なイベントにも参加しています。また、オープンキャンパスでは学科別説明や個別相談を行い、学校の魅力を伝えています。近年は Instagram や TikTok といった SNS も活用し、授業の様子やイベント風景を紹介して、より多くの高校生に学校の雰囲気を知ってもらえるように工夫しています。」 「次に、学費についてですが、近年は光熱費の高騰や物価上昇の影響があり、教材費なども都度見直しています。入学金や授業料、施設維持費などは、事前に学生にしっかりと明示して理解を得た上で、入学してもらっています。また、入学辞退者には、文部科学省の通達に従って学費の返還を行っております。」
高島	「次に、基準 7 の中でも学生選考について、森川委員からお願いします。」
森川	「はい、学生選考についてご説明します。日本人の受験生については、面接を中心に行っており、社会性やコミュニケーション能力を重視しています。筆記試験も時事問題や基本的な学力を測るものを用意しています。留学生については、まず一次試験として読解・聴解の日本語試験を行い、それを通過した学生に面接を行います。この際、書類に日本語能力試験の資格を記載してもらうこともありますが、実際の会話能力、日本語で自分の考えを話せるかどうかを重視しています。」 「さらに、留学生に関しては、日本人とは異なり、経費支弁能力の確認も必要です。具体的には給与明細や通帳の確認を行い、規定以上にアルバイトしていないかなどもチェックします。選考には少し手間がかかりますが、慎重に対応しています。」
高島	「ありがとうございます。これらの取り組みは基準 7 の評価にも反映されており、特に SNS の活用については、今後さらに効果的な対策を模索していく予定です。こちらの基準に関し、ご

	質問ございますでしょうか。特にないようでしたら、次の基準に移ります。」
--	-------------------------------------

基準 8 (財務)

大野	「続いて、基準 8『財務』について説明いたします。財務状況は学生数に左右されますので、入学者数を見ながら収支バランスを取っています。コロナ禍では学生が激減したこともあり、節電や教室の使用制限などで経費を抑えました。毎年、法人本部からの監査も受けており、昨年も特に問題なしとの結果をいただいております。財務情報についてもホームページで公開しており、透明性を確保しています。」
高島	「ありがとうございます。点検項目については、すべて『適切』との判断です。何かご質問はありますか。特にないようでしたら、次に基準 9 へ移ります。」

基準 9 法令等の遵守

大野	「基準 9『法令順守・情報公開等』についてご説明します。設置関連法令はしっかり遵守していますし、セクハラ・パワハラに関するマニュアルも整備しており、学生には通報窓口を明示しています。個人情報保護についても、システム上で外部からアクセスできない仕組みにしており、学生情報の取り扱いには慎重を期しています。教育情報の公開についても、評価結果などをホームページに掲載しています。以上です。」
高島	「では、基準 9 についてですが、8 と同様に点検項目が 4 つあり、すべて「適切」と判断させていただきました。何かご意見やご質問はございますでしょうか。」
妙智	「はい、ひとつ確認させてください。ハラスメント関係の相談窓口って、設置されているのでしょうか。」
田中	「はい。当校は駿河台学園という学校法人の傘下にありまして、そこでは長年にわたり相談体制が整備されています。専門学校や予備校を含めた全体で、各グループに相談員を配置していて、その案内は冊子として配布されています。」
妙智	「なるほど。最近ではコンプライアンスの観点から、ホットラインの設置も求められたりしていますよね。そういう対応はどうでしょうか。」
田中	「確かに、最近はそのあたりも厳しくなっています。学校では職員に限らず、学生からの訴えも受けなければならず、教員と職員という二重構造でやや複雑な部分もあります。そうした構造に対応できる仕組みは整備していますが、正直、どれだけ大変かまでは最近の詳しい状況は把握しきれいていません。ただ、細かい対応事例は多いと聞いています。」

基準 10 社会貢献・地域貢献

田中	「はい、全体的な話になりますが、我々のような専門学校では、実学に基づいた教育ということもあって、産学連携というよりは企業とのつながりが中心になります。各学科で企業実習を取り入れたり、協会の方に来ていただいて実際の授業をしてもらったりといった取り組みを行っています。私も校長になってからまだ浅いのですが、今後はもっと学生が「この業界で働きたい」と思えるような出会いや機会を提供することに力を入れていきたいと考えています。」
高島	「ありがとうございます。それでは次に、国際交流について、岡田委員、お願いします。」

岡田	「留学生との国際交流では、学内でさまざまなイベントを開催しています。たとえば七夕には短冊を飾るイベントを行い、留学生も日本人学生も参加していますし、ハロウィンパーティでは学生たちが装飾を手伝い、当日はお菓子を配るなどしています。また、クリスマスの時期にはロビーコンサートを昼休みに開催したり、日本語スピーチコンテストも実施しています。体育祭にも留学生と日本人学生が一緒に参加していますし、地域との連携としては、巣鴨の盆踊り大会にボランティアとして留学生が参加しています。会場設営や配布物、ステージアナウンスなどを担当し、地域住民と一緒に楽しんでいます。教室の貸し出しなども行いました。」
高島	「ありがとうございます。資料内、点検項目は 3 つありますが、特に国際交流については、現状は学内での取り組みが多い印象です。今後は、小学校を訪れて授業をするなど、地域に出ていく形の国際交流イベントにも取り組んでいければと思います。では最後に、改善方策の一つとして実施されている「大人の共用講座」について、南委員、簡単をお願いします。」
南	「はい。この取り組みは、過去に駿台で学んだ卒業生に、懐かしの先生の授業をもう一度体験してもらおうというものです。2023 年の夏からスタートして、2024 年冬までに 3 回実施し、延べ 200 人ほどの方が参加されています。内容は物理や古文、英語などで、初心者にもわかりやすく構成されています。特に人気の先生の講座には毎回多くの参加があり、次回の開催を希望する声もすでに出ています。駿台は 100 年を超える歴史がありますので、こうした繋がりをこれからも大事にしていきたいと考えています。」
高島	「ありがとうございました。ご質問、ご意見等ありますでしょうか。ないようでしたら、本日の議題は以上となります。長時間にわたるご参加、誠にありがとうございました。」

以上